

令和4年度 学校関係者評価書

学校名 東京学芸大学附属小金井中学校

1 学校関係者による評価

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	<p>①本校の特色のアピール</p> <p>*新型コロナ感染防止対策を継続せざるを得ない状況のもと、対面とオンラインを併用した授業参観や入試説明会を積極的に実施し、入学志願者の保護者向けに附属小金井中の特色を目に見える形で精力的に情報発信を行っていることが、よく理解できた。授業参観（公開）、学校説明会、校内見学会、内部進学者の保護者会など、令和4年4月25日から合計11回行ったと説明を受けたが、これらを実施するに当たって校長・副校長を含む先生方のご苦勞・事前準備は大変だったのではないかと想像する。幸い先生方のご苦勞が報われ、内部進学を検討している附属小の保護者に加えて一般受験を検討している保護者がこれらの説明会に多数参加して下さったことは、大変良かったと思う。</p> <p>*毎月のように学校説明会、入学説明会、授業参観等を実施して、学校の魅力を伝えるなどの情報発信に努めていることが伝わる。保護者の皆様からの理解も得られたと思う。</p> <p>*積極的にオンラインを活用し、特に入学を検討する方々への情報発信を努めて入念に行っていることは、漸進的かつ有用なことと感じている。</p> <p>*進学塾 SAPIX の保護者を対象とした「オンライン説明会」を10月25日に実施したと説明があったが、一般選抜試験で優秀な生徒を獲得するためには、附属小金井中独自の（対面形式あるいはオンライン形式による）説明会に加えて、SAPIX 等の受験塾を巻き込んだ説明会を今後も継続して開催し、附属小金井中の魅力を広く一般の入学希望者に伝えていくことが非常に重要と思う。</p> <p>*附属小金井中のホームページは、数年前に比較すると情報満載で、大幅に充実して来ている。パソコンあるいはスマホ経由で学校ホームページから情報収集したり、必要な書類をダウンロードしたりすることが世の中のスタンダードになって来ている現状を踏まえれば、学校ホームページの充実受験生や在校生の保護者の利便性向上を図り、附属小金井中の競争力を維持・強化するためには must である。LINE による情報発信も追加されており、ホームページの作成並びに更新を担当する先生の負担は大きいと思うが、引き続き（ユーザーの目線を踏まえた）ホームページのレベルアップを宜しく願いたい。ホームページからの情報発信が充実していると「学校の対応が丁寧だ」という印象が生まれる。オンラインでも説明会の回数が多いと、説明会を受けやすいと感じる。志望校を決める時期は、説明会の日程が重なってしまい、日程調整に悩むが、多くの機会が設定されていると、説明会参加人数の増加が見込まれると思う。</p> <p>*小金井中への入学を検討している保護者に対して、在校生徒が直接「小金井中に入学して自分たちがどのように変わったか」などを生徒自身の言葉で伝えることは、これら保護者の判断に大きな影響を与えると思う。7月31日（日）に開催したオンライン形式による学校説明会では、生徒会役員が中心</p>

となって学校の様子を説明したとの説明をいただいたが、これは小金井中の魅力を伝える手法として、非常に有益と思う。今後も是非継続していただきたい。

* 今後は、従来にも増して、益々保護者との対話が求められるのではないかと思う。その理由は、今後校舎の整備・改築、ITを中心とした教育や教育インフラ等を整備していくためには、若竹会会費を（数年おきに）値上げせざるを得ない状況にあるためである。「国立附属学校の授業料は安くて済む、あるいは設備や教育面で資金が不足する場合は、国が遅滞なく補填してくれる」という考えを保護者は持っているかもしれないが、慢性的な財政赤字に悩むわが国においては、残念ながらこの概念は最早「死語」になっている。少子化が急速に進む中で、相対的に潤沢な資金を持つ他の私立あるいは公立の中学校との競争に伍していくためには、設備や教育のインフラあるいは教育そのものに資金を継続的に投入して行かざるを得ない。これに伴い保護者の負担する金額が増えることはやむを得ない。そう考えると、附属小金井中と在校生保護者との緊密な対話を一層深化させていくことが、今後は益々重要になって来ると思う。今後は、①若竹会の保護者同士の緊密な連絡・対話を実現、②先生方と保護者との緊密な連絡・対話を一層行うことで、小金井中が直面する課題（特に資金面での不足）を保護者と一緒に考え、保護者側の理解と賛成を得ることで、小金井中が抱える課題を着実に解決していくことが求められるのではないかと思う。その観点からは、若竹会の一層の活性化を実現していくことが求められると思う（例えば、若竹会にプロジェクトチームのような組織を立ち上げて、小金井中が抱える資金面の課題について、解決に向けた方法について話し合ってもらい、認識を共有する等が考えられる）。同窓会としては、坂口校長のご尽力で実現した「税法上の恩恵が享受出来る（大学基金経由の）寄付ルート」を使って、可能な限り多くの同窓生が参加する形で多くの寄付を実現していくことを目指していきたいと考える。

②附属校としての使命

* 「大学との連携による教育研究」「研究成果の還元」「教育実習生の指導」などについて、引き続き取り組んでほしい。その際には、小金井中の伝統と、大学のキャンパス内にあるなどの特長を活かしてほしい。

③新型コロナウイルス感染症への対策

* コロナ禍が一時ほど深刻では無くなってきている状況下、コロナ対策と併行して徐々に通常の学校生活に戻すことをも検討することになってきた。3つの修学旅行を含む小金井中の特色である様々な学校行事が、感染防止に留意しつつ、制限はあるなかでも、状況に応じて多様な対応を実施されて来たことがよく分かった。この1年間の先生方のご苦労は並大抵のものでは無かったと思う。

* 全国の小学校、中学校では感染が拡大し、学級閉鎖、学校閉鎖などが常態化しているなか、小金井中は教員・生徒にほとんど陽性者がいないことに驚かされている。徹底した感染防止対策に努めつつ、生徒のために各種行事をできるだけ通常に戻そうと工夫していることが窺われ、たいへん評価できる。

* コロナ禍における活動について大変苦慮されていると思う。感染防止対策をしっかりされ罹患者を抑えられたこと、今まで制限されてきた保護者の参観等についてWEBを活用するなどの対応は素晴らしいと思う。

*感染症対策について、一般的な対策はもちろんのこと、生徒の意識の向上にも重きを置かれていることを、一保護者として感じており、長期の学級閉鎖等も行われずたいへん感謝をしている。

*合唱祭を集合型で実施したとのこと。生徒たちの感動は計り知れないものと思う。感染症は完全には収束してはいないものの、対策を取りながら様々な行事を対面で実施していただければと思う。

*2月10日に政府が「新型コロナ対策としてのマスクの着用について、3月13日から屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねる方針を決定」し、「学校の卒業式でマスクを着用しないことを基本とする方針を表明した」ことなどから、来年度は漸くほぼ通常の学校生活に戻るのではないかと考えている。

④入学選抜

*願書と調査書が附属小金井中のホームページからダウンロードできるようになったことは大きな改善と判断した。

*前回の入試までは、附属小金井小からの進学者は例年65名前後で推移していた。附属小金井小は1学年3クラスで1クラスが35人とすると、毎年の卒業生数は105人となり、この105人から小金井中へ内部進学する生徒数が65名前後（凡そ60%）しかいないというのは少ないのではないかと、という印象を以前から抱いていた。しかし、今回は附属小金井小からの進学者が73名まで増えた。

*一般選抜試験で優秀な生徒を獲得するためには、SAPIX等の受験塾主催の説明会や小金井中独自の（対面形式あるいはオンライン形式による）説明会を今後も継続して開催し、小金井中の魅力を一般の入学希望者に伝えていくことが非常に重要と思う。

⑤施設整備の充実

*体育館の冷暖房装置の設置、校舎のエレベーター新設を東京学芸大学に対し毎年要請されていることは承知しているが、設備更新の金額が大きいことから、なかなか東京学芸大学に認めてもらえない状況が続いていると理解している。附属小金井中の設備更新の責務は東京学芸大学が負っていると思うので、体育館の冷暖房装置の設置、校舎のエレベーター新設については、引き続き粘り強く東京学芸大学に申請を継続していただきたい。

⑥働き方改革・業務軽減

*先生方の業務軽減に向けた意識が以前に比べ顕著になり、職員会議を勤務時間内に終了することを目指すようになったとの説明を以前にいただいたが、大変良いことだと思う。部活動指導が外部の指導員に委託できるようになったことも、先生方の負担軽減に貢献していると思う。願わくは、小中学校の通知表や受験調査書などが全国一律の統一様式に代わり（学校毎に違う様式を使う意味は殆ど無いと思われるので）、学校への提出・保護者のへの送付などが全て早期にデジタル化されることを祈っている。

*働き方改革等については、先生の意識が高まってきているとのことと良いと思う。とはいえ、意識だけでは限界もあるので、前例主義に捉われず、残すべきもの、止めるものを精査し業務改革の推進に努めていただきたいと思います。

*国立大学附属学園を取り巻く環境が大きく変わった結果、校長・副校長の守備範囲が、教育分野に加えて財政面を含めた経営分野にも目配りをせざるを得ない状況が増えているのではないかと心配している。簡単に解決できる問

	<p>題ではないが、運営資金面での制約が少なくなれば校長・副校長の業務負担の改善に繋がるのではないかと思う。</p> <p>*同窓会としては、昨年3月に実現した「税法上の恩恵が享受出来る（大学基金経由の）附属小金井中向け寄附ルート」を使い、例えば同窓生向けに「母校創立 80 周年記念寄附事業キャンペーン」を母校と協同で立ち上げるなどして、可能な限り多くの同窓生からの寄附金を実現していきたいと考えている。この件については、同窓会理事会で意見集約を行った上で、機会を改めてご相談したい。</p>
<p>教育活動</p>	<p>①教育活動全般</p> <p>*GIGA 機の破損修理費のことは「若竹会を考える会」においても議論になった。PC 端末の進歩は日進月歩で、最近ではディスプレイ画面が分離できる、その分離されたディスプレイ画面にタッチペンで直接入力・描画できる、などというPCも見かけるようになった。国から配布された GIGA 機の仕様は理解していないが、最近のPC並びにPC周辺の著しい進歩を勘案すると、保護者が我が子に買い与えたPCの持込を認めること（所謂 Bring your own device 方式で修理費は保護者負担）もやむを得ないのでは、と思う。</p> <p>*なお、「若竹会を考える会」の議論では、PC修理業者と一括して契約すると修理費を安くできるのではないかとの意見があった。附属小金井中単独でPC修理業者と契約するのではなく、学芸大学傘下の附属学校園が一丸となって（例えば、附属小金井小と附属小金井中が一緒になって）PC修理業者と契約する、東京学芸大学をも含めた大学全体でPC修理業者と契約する、小金井市の公立小中学校全校がPC修理業者と契約しているのであればそれに参加させてもらう、などということも一案と思う。</p> <p>②生徒の安全への対応</p> <p>*現社会においては、周りとの係わりが薄れてきているのが現実であると思う。生徒の安全はもちろん、不登校生徒・合理的配慮を必要とする生徒への対応についても地域との連携が重要と認識しているので、継続し協力体制の構築に努めていただければと思う。</p> <p>*生徒が安心して通学することを目指し、地域一体となった見守り体制の構築が必須である。継続して武蔵小金井駅構内等での見守りを行うと共に、学校との連携強化に努めていきたいと考えている。</p> <p>*相変わらずSNSに起因する少年の犯罪被害者が増加している。特に「子どもの性」に関する問題が深刻化している。もちろん、大人の側に問題があるが、生徒自身も「知らない大人と繋がり、会いに行くと児童買春の被害に遭ったり自撮り等の被害に遭わないよう」にスマホの危険性や上手な使い方について小中学生のうちから教育していけるとよいと思う。引き続き、対応をお願いしたい。小金井警察署においても教材（DVD）の貸し出しやオンライン式での講話なども実施しているので、必要に応じて声掛けをいただきたい。SNSに関わる問題は其の怖さや深刻性について保護者も学ぶ必要があり、以前は保護者向けの講演会も開催していただいたが、今後もそのような機会があるとよいと思う。</p> <p>*スクールサポーターとの情報共有を引き続きお願いしたい。</p> <p>*小金井警察署、JR 東日本の皆様にご協力を賜りながら安全な中学校生活を送らせていただいていることについて、心より感謝申し上げます。</p>

	<p>③不登校生徒・合理的配慮を必要とする生徒への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> *不登校や合理的配慮を必要とする生徒については、昨今認知度も高まっており、対応について様々な議論がある中、学校として試行錯誤をしながらも、ご対応いただいていることはたいへん素晴らしいことだと感じている。皆が多様性を容認する、そんな社会が現実となることをつとに願っている。 *心のケア、人的・物的支援体制が様々な面から行われており、豊かな中学校生活を生徒の皆が送れるようになることを願っている。 <p>④防災学習・キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> *中学2年生のインターンシップ研修については「中学2年生の年齢から判断して、インターンシップ研修の効果は疑問である、寧ろそれら研修派遣先の数の確保、派遣のための事前準備、事後のお礼等に先生方の多くの時間が割かれることになるので、反対である」と以前から申し上げてきたので、ここ数年「附属小金井中の現状に対応した実施方法を検討する」方向に対応が変わり、「社会人からお話を聞く会」に変わってきているのは、正しい方向と思う。重要なことは、中学2年生に「将来の自分に合った職業は何か、それを実現するには今から何をすれば良いのか」を考えさせることだと思う。 *「キャリア教育」に対しては、同窓会としても何らかのお役に立てる場面があると思う。
<p>研究活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> *研究活動に力を入れられていることは素晴らしいことだと思う。特に「個別最適」は保護者の観点からも、研究・推進いただきたいテーマのひとつである。 *公開授業研究会が教科単位で実施できたことは本当に良かったと思う。附属校の使命でもある教育研究が継続して行われていくことを願う。 <p>(エイジェンシー能力の育成についての私見)</p> <p>金融や経済の分野で使われる「エイジェンシー」という言葉の意味は知っていたが、教育における「エイジェンシー」という言葉・概念は初めて聞いたので、東京学芸大学次世代教育研究推進機構のウェブサイト参照した。当該ウェブサイトには、OECDによる「The Future of Education and Skills 2030」事業において、Position Paper (2018年公開)、Concept Note (2019年公開)という2種類の文書の中に「生徒エイジェンシー」という考え方が示されていること、そして「生徒エイジェンシーとは、コンパスをもって目標に向かい歩むように、個人/社会のウェルビーイング(良い状態)に向かって変革を起こすために、生徒自らが目標を設定し振り返りながら責任ある行動をとる能力と定義され、エイジェンシーを発揮するにはコンピテンシー(複雑な要求(課題)に対応することができる力)が必要だといわれています。」と書かれていた。</p> <p>(参照先：東京学芸大学次世代教育研究推進機構 URL: https://www2.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/202008seika/)</p> <p>同窓会会報第10号(最新号)では、期を超えた多くの同窓生が、附属小金井中在学中の教育と交友関係により、将来必要となる「考える力」を育むことができたことと回想している。私はこの体験がエイジェンシーという能力の育成に</p>

	<p>繋がると思う。附属小金井中の先生方はエイジェンシーという能力を将来発揮できるような生徒を創立以来途切れること無く育てて来られたわけで、そのことに対して自負を持たれて当然と思う。</p> <p>デジタル・トランスフォーメーションが進展し、世界の人々と密な交流が益々進むことが予想される今後の世の中では、一人一人が持つ人となりや教養の深さが大きな役割を果たすと思うし、目上や年寄りの指示に盲従すること無く様々な情報をもとに自分で考える、他人と議論をして自らの考え・理解・認識を深めることが重要になると思う。中学生はあまり物を知らないの上から目線の教育を行うという考え方を極力排し、寧ろ中学生を一人前の大人として扱い、様々な意見・考えに触れさせ、自身の考えを発表させ、他人と議論をして自らの考え・理解・認識を深めさせ、そして自分の考えの実現を促すことが、エイジェンシーという能力を育むことに繋がると思う。最近ではオンラインの発達により場所の制約無く情報を利用できるようになっているので、以前に比べるとエイジェンシー能力育成という目的の実現は相対的に容易になっているのではないかと。他方で、先生方にとっても、これら新たな環境への対応（具体的には、オンラインで繋がる PC を前提においた教育方法への対応、授業の工夫、これら新たな環境を自在に使えるような自身の能力開発など）が求められていると思う。</p>
<p>学生の教育・支援活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> *大学のキャンパス内にあることから、教育実習の事前事後指導や、学生たちの授業参観などの受入れに、引き続き積極的に取り組んでほしい。 *附属校の重要な役割でもある教師の育成について、教育実習が行われ、未来に向けた質の高い教育の裾野が広がってほしい。 *学部や大学院との連携を深めて、よりよい指導の形を探し続けていただきたい。 *次世代の教育を担う方々への支援は、次世代の子どもたちを育成するための大切な活動かと思う。今後とも継続して注力されることを願っている。
<p>社会貢献活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> *地域社会と連携したボランティア活動等を積極的に行うことは素晴らしい取り組みだと思う。引き続き、地域社会と連携したボランティア活動等を通じて、保護者や地域に信頼される学校づくりをお願いしたい。 *FC東京含む企業との連携はこれからの学校設備運営の新しい形だと考えられる。PTAの立場からも、これからも学校と協力し先進的な活動に協力して参りたいと思う。 *先生方の業務負担が過度にならないことが大切なので、可能な範囲での社会貢献活動を継続していただきたい。

2 評価の実施概要

- ・学校関係者委員会委員の皆様には、通常ならば、次のような機会にご来校いただき、本校の教育活動の参観や施設・設備の見学などを行っていただいている。
学校評議員会（年2回）、入学式、卒業式、授業参観（年2回）
しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症への対策として、これらの行事へご出席いただくことができなかった。
- ・学校評議員会（年2回）については、報告・説明事項をまとめた資料を学校評議員の皆様へお送りし、皆様からの評価は文書でいただいた。

3 学校関係者委員会委員，開催日

1) 委員（五十音順）

浅野 康弘 様 （東日本旅客鉄道会社 八王子支社 武蔵小金井駅長）

荒井 耕一郎 様 （本校同窓会 理事長）

瀧山 美恵 様 （警視庁小金井警察署 生活安全課長） 令和5年2月27日より

辻川 幸広 様 （警視庁小金井警察署 生活安全課長） 令和5年2月26日まで

森 忠臣 様 （本校保護者と教師の会 会長）

2) 開催日（資料送付日）

・第1回 令和5年1月20日（金）

・第2回 令和5年5月15日（月）